

G7 Workshop on Resource Efficiency の結果概要 (資源効率に係る G7 ワークショップ)

【日時】平成 27 年 3 月 12 日・13 日

【場所】ベルリン (ドイツ)

【ワークショップの目的】

2050 年には人口が 90 億人に達すると見込まれる中、資源の有効利用が求められている。例えば、製造業においては、コストの 45% が原材料に起因するとも言われており、資源の経済的な利用は、環境保護に加え、競争力の強化、雇用創出につながるとされている。資源効率が経済成長の原動力となり、経済成長から原材料の消費をデカップリングすることがますます重要になってくることから、G7 における天然資源の効率的利用の促進に向けて、ドイツ G7 サミットにおいて資源効率を議題とすることを前提に、当ワークショップが開催された。

【ハイレベルセッション概要】

「成長、雇用、環境保護に資する資源効率」をテーマに開催されたハイレベルセッションでは、始めにレーラー独 G7 シェルパからオープニングの挨拶があり、続いてヘンドリクス独環境・自然保護・建物・原子力安全大臣、マハニツヒ独経済エネルギー省次官、シュタイナー国連環境計画 (UNEP) 事務局長、レッシュ独産業連盟 (BDI) 理事から講演が行われた。

主な発言内容は以下の通り、

- ヘンドリクス独環境・自然保護・建設・原子力安全大臣「資源効率に向けて」
 - 独においては、持続可能な資源の活用に向けて、2012 年に「資源効率プログラム (ProgRess)」を定めて実施している。
 - G7 においては、資源の効率的な利用に向けて、「G7 アライアンス」を提案しているところ。G7 アライアンスの推進により、G7 における行政と産業界の連携の促進、新技術や新たなアイデアに関する政策対話の推進、知見・ベストプラクティスの共有等を期待している。
- シュタイナー国連環境計画 (UNEP) 事務局長「世界の資源」
 - 21 世紀には地球の人口が 90 億人に達し、資源制約が顕在化してくると予想されることから、資源効率の重要性が増している。

- 例えば、日本においては3Rやトップランナー方式などの革新的な取組を実施している。
- G7における資源効率の取組を歓迎する。

○レッシュ独産業連盟（BDI）理事「競争力強化のための資源効率」

- 鉱物資源等の使用が増大しており、資源効率は産業界にとっても重要となっている。生産の最大化ではなく、革新的な生産プロセス・製品が重要になっており、産業界は資源効率について議論すべき。
- 独産業連盟として、資源効率に関し、G7の取組を支持し、Business 7（G7各国の経済団体のアウトリーチグループ）としても活動していく。

また、各講演の後、講演者の間で、パネルディスカッションが行われ、

- 資源効率は重要だが、その重要性が必ずしも十分理解されておらず、取組が進んでいないこと、
- 産業界・学界・消費者等と協力し、情報提供、インセンティブ付与等により、企業・消費者の行動を変える必要があること、
- まずはG7としてアクションを起こし、それを新興国、開発途上国に広げていくべきこと

等が議論された。なお、ハイレベルセッションに引き続き行われた実務者レベルでのワークショップでは、資源効率の概念は多様であり、各国の取組を尊重すべきとした上で、G7として取組むべき活動等について議論された。

以上